

第19回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	最優秀賞
作品	あの街で迎えた初めての冬。突然の大雪に慌ててホームセンターに走ったけれど、雪かき道具は残っていなかった。向かい風を押してアパートに帰ると、駐車場に積もった雪に刺さったスコップ2本。マジックで「みんなの」と書いてあった。
作者	ひよこ草
住所	神奈川県
講評	この審査をしている現在、世界は刻々と、新型コロナウイルスに冒されています。そんな中、最近SNSで読んだのは、ローマのとあるマンションで、住民のお年寄りに向けて、買い物を代行しますという若者からの貼り紙があったということ。人を救うのは、結局、小さなコミュニティーの助け合いなのです。この作品を読んで、それを思い出しました。大雪に焦って走り、がっかりしてからの心温まるラストまで、120文字に情報がきちんと盛り込まれ、ストーリーが語られていることにも感心しましたが、何よりもこの状況が素晴らしい！ ラブレターのテーマは、愛とか恋ばかりじゃない。他者への思いやり溢れた作品に、人間っていいなと心から思いました。

賞	優秀賞
作品	ふるさどが 雪化粧して 出迎える 緊張気味の 年下の彼
作者	のらくら
住所	京都府
講評	これは本当に、可愛くて幸せで、素敵な作品です。何度も読んでいうちに、この時の彼氏の顔や表情、それを茶化す年上の彼女とのセリフ、さらに両親との対面シーンなど、いろんな想像が膨らみました。もちろん、雪化粧して出迎えてくれたふるさどでの、幸せな未来まで……。
作品	ストーブの前で合羽を脱ぐ。あなたが連れてきた冷気に、ちょっとひるんだあたしはまだまだだ。定年のない家業、継ぐとも継がないとも言い出せず、渋めのお茶でやり過ごす。明日は降らないといいね。
作者	キラキラめがね
住所	千葉県
講評	愛だの恋だの言わない。フワフワしたところは微塵もない。結論さえ出さない……。作者は自分の置かれている状況を、実に冷静に分析して描いています。「あたしはまだまだだ」とあるけれど、どこか冷めていてずるくて、でも優しい、成熟した大人の感性を感じました。

第19回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	佳作
作品	無事に帰ってきて。雪の日は心配症という病気になる私。
作者	ルーク
住所	東京都
講評	これを読めば、誰でも頷いてしまうのではないのでしょうか。雪のラブレターというテーマで、頭で作らず、感じたままを素直に書けば、きっとこうなるという、お手本のような作品です。飾らない言葉にとっても好感を持ちました。
作品	通学路の雪をかく。雪かき隊の目標は、長靴がなくても歩けるようにすること。家庭では、三人の子供がいる。親の役割は、自分がいなくなっても生きていけるようにすること。
作者	ハッピーママ
住所	埼玉県
講評	雪かき隊の目標は、長靴がなくても歩けるようにすることなんですね。なるほど、勉強になりました。これは、実際に雪かき隊をやっている方でなければ書けない文章だと思います。内容の力強さと文体がピッタリ合っていて、作品というより、この作者の方に賞を差し上げたいと強く感じました。
作品	雪道のついてない家ひとつそうか母はもうここにはいないのだ
作者	内丸せつこ
住所	青森県
講評	お母様は亡くなられたのでしょうか。雪道のついてない家は、誰も住んでいない家……。なんとも言えず切なく哀しいラブレターです。

第19回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	入選
作品	雪の日に生まれた我が子大学の保育器の中母乳届ける
作者	暁夏
住所	北海道
講評	少ない文字数の中、簡潔に具体的に情報が凝縮され、形容詞がない分だけ、懸命に生きようとする小さな命の鼓動と母の愛が、ダイレクトに伝わってきます。お子さんの健やかな成長を、心からお祈りしています。
作品	冬期講習の夜。雪が綺麗で、窓の外をずっとみていた。もうすぐ、春が来る。合格しなきゃという想いより、先生に会えなくなる寂しさが募った。塾のお金を出してくれたお母さん。ごめんね。あの時、先生に恋をしていました。
作者	一瀬 陽子
住所	福岡県
講評	この状況も、その気持ちも、とてもよく伝わってきます。何度も何度も言葉を吟味されたのでしょうか。とても素直で、胸がキュンとする、素敵な作品だと思います。
作品	「ゲレンデの前売り券買ったの?」「うーん、去年も余ったし今年を買ってない。」あなたは寂しそうに眉を下げた。彼の唯一の趣味なのに。暖冬が憎らしい。私は物干し竿に降れ降れ坊主を数えて吊るした。雪が降りますように。あなたがボードに行けますように。
作者	はやしかな
住所	石川県
講評	彼がスノーボードに行けるように、物干し竿に降れ降れ坊主をつるす奥さん(彼女?)。なんて優しいんでしょう! こんな優しい作品に出会うと、こちらまで優しい気持ちになります。
作品	冬の2番電車。ここに道が出来ているのは、今日も君が朝練に行ったから。私もそこを、歩く。
作者	いちよう
住所	新潟県
講評	冬の、キリッと冷えた朝。細い道を辿る「私」と、それよりももっと早く、朝練に行く人……。ここには登場しない彼(彼女?)の頑張りに、エールを送りたくくなりました。
作品	前を走る、君のおしりが笑ってて、リードを持つ私も笑っちゃう。明日の朝も明後日の朝も歩こうね。新しい雪に新しい足あとをつけて。こごえる雪の朝の、この上ないしあわせ。
作者	すもも
住所	山形県
講評	とにかく、「君のお尻が笑ってて」という表現が秀逸です。しあわせな朝のお散歩の様子が目に浮かび、思わず微笑んでしまいました。
作品	思い切って言ってみて良かった。「ほんとに義理チョコなのかよ」って。
作者	ラケット
住所	神奈川県
講評	これは素晴らしい! 全世界の人に言いたい気分です。「あなたも思いきって言ってみましょう!『ほんとに義理チョコなのかよ』って!」幸せは、こんなちょっとした勇気から生まれるのかもしれないね。

第19回 雪のラブレター募集(入賞作品)

【恋文の部】

賞	入選
作品	メリメリと枝が裂ける音。慌てて布団を抜け出す。かんじきで雪をこぐ。竿先に括り付けた鉤を枝にかけ揺する。雪がどさっと落ちる。終わったら隣の木。また次の木。明け方までかかったと父が笑う。りんごへの愛ってすごいなあ。そう思った少年の頃。
作者	中年やまめ
住所	神奈川県
講評	前半の、お父様のお話が、寒さを突き抜けた雪の痛さまで感じさせ、リアルで素晴らしいと思いました。逆に、「りんごへの愛ってすごいなあ。そう思った少年の頃。」という後半で緊張感がほどけてしまって、ちょっと残念。
作品	「うつむかないで前を見て」あなたのスノボのアドバイス、凍っていた私の人生を溶かす魔法の言葉。あの日触れた手が今もあたたかい。
作者	ユキ
住所	愛知県
講評	「うつむかないで前を見て」なんて、ラブソングの中に使ったら、とても陳腐な表現です。でも、スノボのアドバイスとして聞けば、なるほどその通り！ 素直に頷けます。本当に言葉の魔法ですね。
作品	尊敬とか憧れとかキレイな言葉で感情を宝石箱に詰めようとしていたけれどももうやめた。吹きつける雪で心がはじけたこれは恋だった！
作者	桜鬼
住所	岩手県
講評	この恋文の部では基本的に、作者その人にしか書けないリアルな表現をする作品を選んでいますが、これはもう、その勢いだけで「参りました！」という作品です。はい、参りました！
作品	屋根の雪落ちて目覚める新天地今日も一日頑張れとあなたに言われた気がしたの
作者	穂苺 敏
住所	北海道
講評	ドサッと屋根の雪が落ちる音って、本当にびっくりしますよね。でも、ここにいる「あなた」とは、誰なのでしょう？ 作者はどういういきさつで「新天地」で暮らすことになったのですか？ 120文字まで使えるのですから、もう少し説明してくれたら、と思いました。

岡崎 由紀子氏（脚本家、山形市出身）

審査員：

日本脚本家連盟理事、日本放送作家協会所属。「アイ・ラブ・ユー」(映画)「警視庁捜査一課9係」「出入禁止(デキン)の女～事件記者 クロガネ～」「TEAM～警視庁特別犯罪捜査本部」「女刑事みずき」「捜査線上のアリア」「白と黒」「水戸黄門」「かりゆし先生ちばる!」「おかしな刑事」などを担当。

応募作品数：1,100作品